

種類	演題 1
代表発表者氏名	高石麗理湖（国際医療福祉大学）
共同発表者	中村哲也（国際医療福祉大学）、若林功（国際医療福祉大学）
発表タイトル	リハビリテーション専門職とソーシャルワーカーの連携による地域課題の抽出 ―F-SOAIP で作成された支援記録の利活用をととして―
概要	2018 年度より地域福祉計画の策定が努力義務化されました。厚生労働省は「地域福祉計画は、地域福祉推進の主体である地域住民等の参加を得て、地域生活課題を明らかにするとともに、その解決のために必要となる施策の内容や量、体制等について、庁内関係部局はもとより、多様な関係機関や専門職も含めて協議の上、目標を設定し、計画的に整備していくことを内容とする」としています。また、上記法改正において「包括的な支援体制の整備に係る事業に関する事項」が計画に盛り込まれるべき事項として新たに追加されました。「包括的な支援体制の整備」を進めるためには、地域が抱えるニーズの把握が不可欠です。地域が抱えるニーズを把握するために、「地域住民の参加を得て地域生活課題を明らかにする」とされていますが、申請者が参画してきた地域福祉計画の策定プロセスにおいて、リアルニーズの把握ができているのか疑問に感じています。 なぜならば、座談会や策定委員会に参加する住民は地域福祉に関心が高いことに加え、物理的に会場にアクセス可能な状態の者に限られているからです。現に、申請者が関わる地域福祉計画策定委員会では、障害当事者等の意見の反映が課題となっています。 現在、リアルニーズの把握に資する方法として、項目形式の経過記録法である F-SOAIP で作成されたソーシャルワーク記録の利活用が有用と考え研究を遂行しています。
キーワード	支援記録、記録の活用、ニーズ把握、F-SOAIP
参加者へ一言	本研究で扱うデータを「リハビリテーションに関わる各種専門職が作成する記録（カルテ）」に広げることで、より確かな生活課題や地域課題を抽出するための貴重なデータ源として信頼性を向上させることにつながるものと考えています。 申請者は元々、リハビリテーション病院の MSW として働いてきました。その中で、記録がないがしろにされていることに課題を感じていました。研究会では日頃の皆様の「記録」の作成・活用状況、そして、記録の活用による医療と福祉の連携によるニーズ把握の可能性や、記録を根拠とした各種政策立案等といった、「記録」の可能性についてご意見を頂けると幸いです。